

[た よ り]

愛知県支部だより

山崎親雄

1. (社) 日本透析医会と愛知県支部

両者の関係を語るとき、どうしても忘れることのできない先生がお二人おみえになる。一人は故太田裕祥先生で日本透析医会前専務理事であり、もう一人は太田和宏初代愛知県透析医会会長である。二人は、こんな喩えは不敬とは考えるが、元気のいい鶴と鶴匠の関係にあったといえる。元気のいい鶴は、「地域社会とともに発展する透析医療」を夢に描き奔走し、鶴匠は手繰りを引き締めつつ、主として行政の説得役を引き受け、1971年に(財)愛知県腎不全対策協会(現在の愛知腎臓財団)が設立された。

1972年は、わが国の透析医療が急激に発展することになった転換期で、これは透析者が内部身体障害者の認定を受け、更正医療の適用となったことによる。急激な患者数の増加は、全国的な民間透析医療機関の急増につながり、急激な医療費の膨張を招いたことは必然であったと考える。この時点で、心ある透析医は、将来の透析の姿(医療経済的な抑制による質低下の可能性)を予想していた。愛知県内にはこのことを危惧する透析医も多く、将来の透析のあり方(医療の質の面からも、医療経済の面からも「適正な透析」)を自ら考えるべく、再び二人の太田先生を中心に、1978年に愛知県透析医会が設立された。

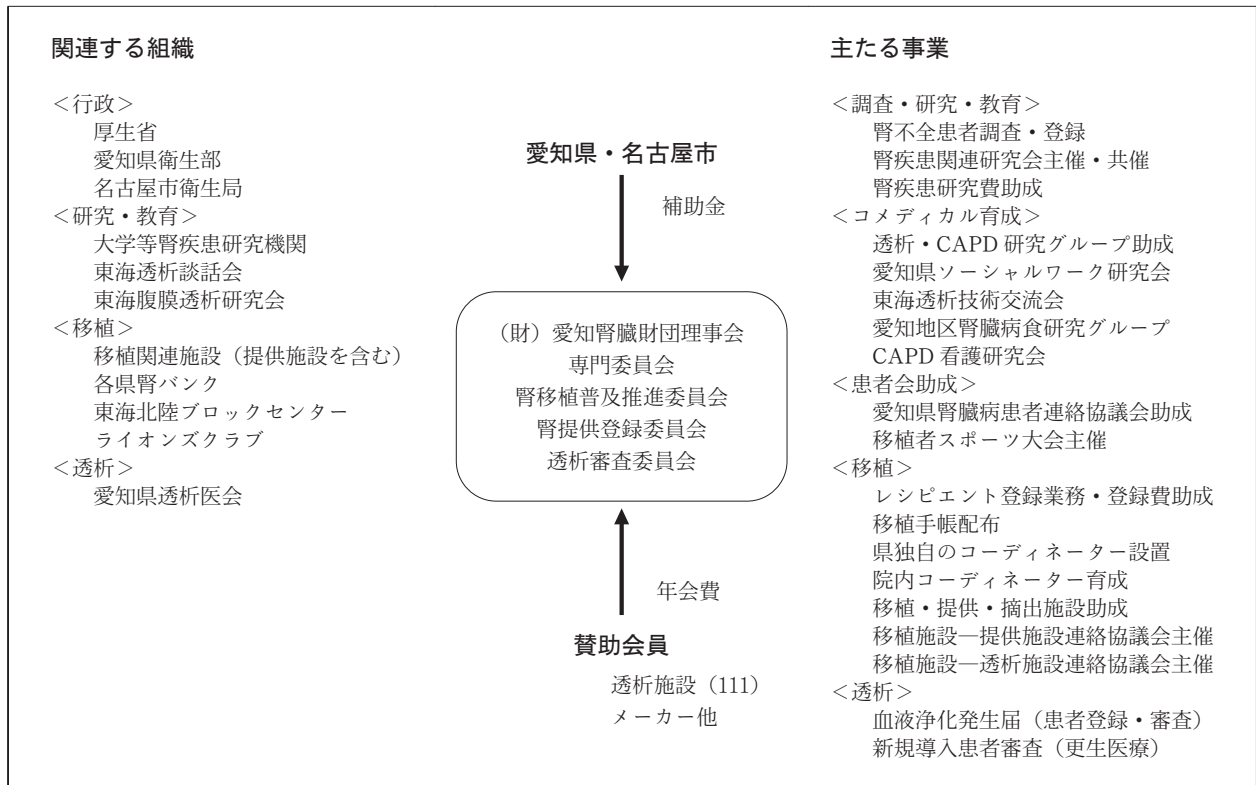
1981年の診療報酬改定は、透析医療費が約3/4に引き下げられるという前代未聞の改定となった。予想されていたとはいえ、全国の透析医療機関の経営にとって大打撃を与えることになったこの改定を機に、各地の透析医会が一同に結集し、1987年に(社)日本透析医会が設立されることとなったが、この蔭で、愛知

県の鶴と鶴匠以外にも、多くの愛知県透析医会の会員が関与できたことは、当支部の誇りに思うところである。

2. (財) 愛知腎臓財団と愛知県透析医会

(財)愛知腎臓財団は愛知県腎バンクの役割をかねる他、図1のような事業を展開している。いわゆる腎疾患に関する愛知県方式と呼ばれるシステムである。初期の活動に比べて、腎移植にかかわる事業が拡大してはいるが、基礎的な腎疾患・腎不全研究への補助や、透析コメディカルスタッフの活動支援、患者会活動への補助など、腎不全・透析治療の健全な発展のための事業も展開されている。また、愛知県の特徴として、透析コメディカルスタッフを含めた県単位の研究会は持たず、それに代わって、日本透析医学会の地方学術集会である東海人工透析談話会(今秋、すでに第61回目が開催された)や東海腹膜透析研究会の事務局も愛知腎臓財団がかねている。移植については、名古屋第二日赤の移植外科グループ、名古屋大学・中京病院を中心とする泌尿器科グループ、藤田保健衛生大学泌尿器科の他、最近では名古屋市立大学泌尿器科が献腎移植を担当し、特に藤田保健衛生大学脳神経外科・ICUのご協力により、腎提供・腎移植数が全国一であることは周知の通りである。現在、移植に関しては、静岡県方式とされる提供施設内コーディネーター(院内コーディネーター)の育成に取り組んでいる。

ところで、愛知県透析医会はこの愛知腎臓財団事業の中で、各施設から申請される更正医療に関する審査と、新規導入血液浄化発生登録・審査事業に協力する他、年間運営資金の約1/3を負担し、愛知腎臓財団



TRENDS & TOPICS in TRANSPLANTATION Vol.8 No.3 1997 より

図1 愛知腎臓財団による腎疾患対策（いわゆる愛知県方式）

の事業を支えている。

3. 愛知県透析医学会の活動

県透析医学会の定期活動は、月1回開催される総務委員会で計画され、実行されている。

研修会についてはすでに述べた通りであるが、会員（医師）対象には、年1度の研修会が開催されている。古くは Dr. Nakamoto や Dr. Shaldon の講演もあった。また、平成2年と4年には、「透析と肝炎」に関する研修会が開催された。二木立日本福祉大学教授の「今後の日本の医療に関する動向」や、立岡 亘愛知県医師会顧問弁護士による「医療訴訟の実態」などは、医会会員にとってエキサイティングな講演であった。最近の、平成10年の前田先生（名古屋大学大幸医療センター）による「愛知県の透析30年を振り返って（愛知県透析医学会創立20周年記念講演）」は日本透析医学会誌に掲載され、愛知県透析医学会ホームページでも読むことができる。この他、診療報酬改定年には、愛知県国民健康保険連合会課長による改定についての説明会と同時に、保険審査担当の医会会員により「保険請求と審査に関する問題点」についての講演があり、この時にはコメディカルスタッフの他、事務職員の参

加が多数となる。特筆すべきは、これらの講演会・研修会は、歴代会長の意思もあって、すべて会費で運営されスポンサーはない。

年3回を目途に発行される愛知県透析医学会ニュースは、「日本透析医学会の動向」などの他、保険診療（請求・審査）に関わるニュースを提供している。また、県内の移植関連の情報も併せて提供される。

親睦については、年3回のゴルフと、年3回程度の囲碁大会が開催され、ゴルフではシングル会員も少なくはないが、会員の奥様や、会員施設のスタッフが優勝する機会も多い。また、先の研修会をかねて、忘年会または新年会が開催される。二次会では、多くの会員がそのタレント性を発揮している。

今年度については新しい事業の計画が進められており、一つは日本透析医学会研修委員会の補助を受けて、「院内感染防止を目的とした感染対策マニュアル遵守による新規肝炎発生予防のための前向き研究」を医会会員施設を挙げて取り組むことが決まっていることと、透析医学会災害対策部会作成の「災害時の情報収集システム」を、愛知県透析医学会システムとしても利用できるようサーバーへのダウンロードが決定されている。

最後に、冒頭でも述べた通り、愛知県透析医学会会員

は日本透析医会の活動を支え、日本透析医会の事業に協力してきたという自負を持っていると同時に、今後ともこの義務を果たさなければという責任も感じてい

る。多くの情報発信が愛知県透析医会からできるよう、今後とも努力して行きたい。